

3. 回答結果と分析

(1) まとめと分析

(2) 以下に示される平成16年度後学期の集計結果を、設問ごと4段階評価(授業のレベルのみ5段階評価)において、肯定的評価を回答した学生の割合を示し、科目別の傾向を分析する。

これまでのアンケートの回答傾向として、前期よりも後期の評価が高くなる。これは、学生の授業に対する習熟度が上がるためである。

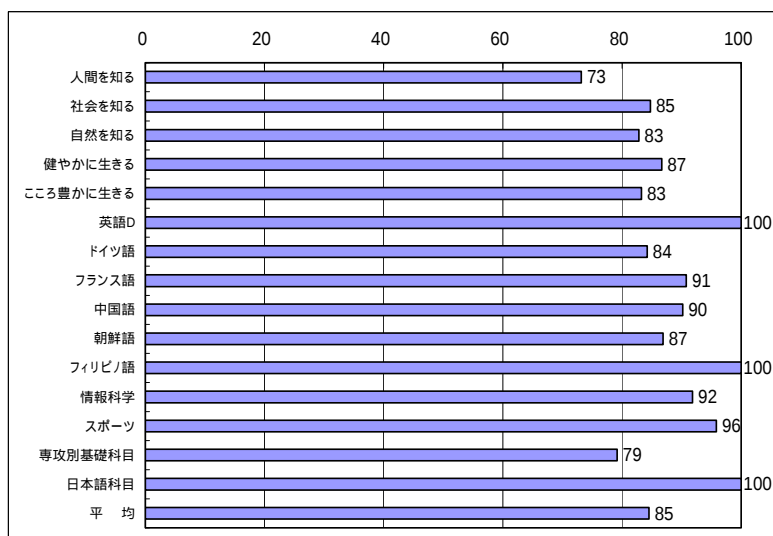
1) 「授業の内容に関する質問」に対する学生の自己評価

まず「目的・目標の理解」であるが、学生の肯定的評価が各科目とも70%以上に達していることから、授業の目的・目標は概ね理解できていると判断できる。「英語D」「フィリピン語」「日本語科目」は肯定評価が100%であったことをはじめ、「フランス語」「中国語」「スポーツ」「情報科学」が90%以上の肯定的評価を得る。

表1 設問 1-1目的・目標の理解

(全回答数に対するA, B評価の割合(%))

	平成 16年度 前	後
人 間 を 知 る	73	73
社 会 を 知 る	79	85
自 然 を 知 る	77	83
健 や か に 生 き る	83	87
こ こ ろ 豊 か に 生 き る	93	83
英 語 D	86	100
ド イ ツ 語	84	84
フ ラ ン ス 語	89	91
中 国 語	90	90
朝 鮮 語	91	87
フィリピン語	100	100
情 報 科 学	82	92
ス ポ ー ツ	95	96
専 攻 別 基 礎 科 目	73	79
日 本 語 科 目	100	100
平 均	80	85

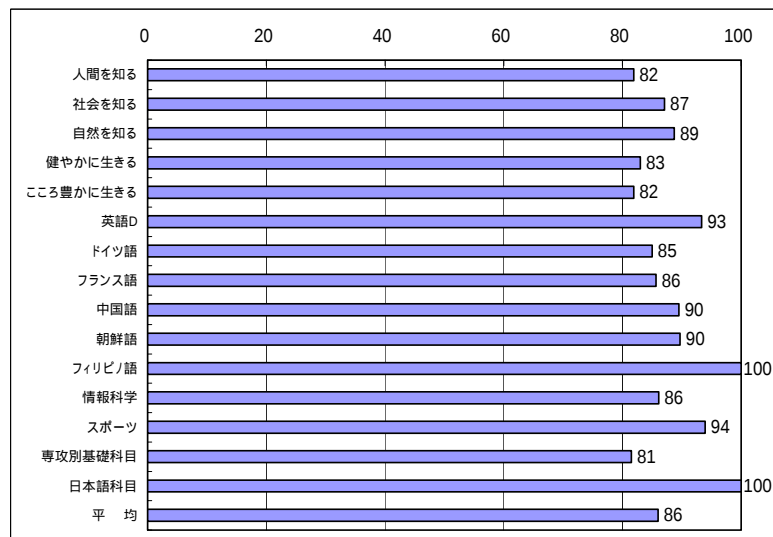


次に「進度・時間配分」であるが、全科目で80%を超える肯定的評価を得た。一部の科目を除いて後期の評価が高くなったのは、授業に対するスタディスキルの習熟度が向上したためと考えられる。

表2 設問 1-2進度・時間配分

(全回答数に対するA, B評価の割合(%))

	平成 16年度 前	後
人 間 を 知 る	82	82
社 会 を 知 る	83	87
自 然 を 知 る	80	89
健 や か に 生 き る	86	83
こ こ ろ 豊 か に 生 き る	93	82
英 語 D	100	93
ド イ ツ 語	83	85
フ ラ ン ス 語	82	86
中 国 語	84	90
朝 鮮 語	95	90
フィリピン語	100	100
情 報 科 学	76	86
ス ポ ー ツ	92	94
専 攻 別 基 礎 科 目	75	81
日 本 語 科 目	98	100
平 均	82	86

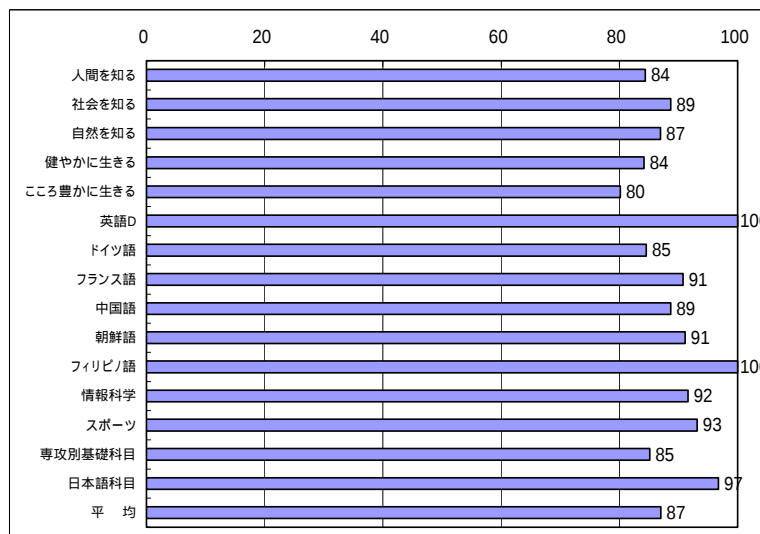


「シラバスどおりの授業」については、全科目平均で87%、科目別でも80%を超える肯定的な評価を得た。学生は、シラバスから授業の進め方を読み取り、それに沿って授業が展開されていることを評価している。

表3 設問 1-3 シラバスどおりの授業

(全回答数に対するA, B評価の割合(%))

	平成 前	16年度 後
人 間 を 知 る	85	84
社 会 を 知 る	85	89
自 然 を 知 る	83	87
健 や か に 生 き る	85	84
こころ豊かに生きる	89	80
英 語 D	100	100
ド イ ツ 語	84	85
フ ラ ン ス 語	85	91
中 国 語	86	89
朝 鮮 語	92	91
フィリピン語	100	100
情 報 科 学	84	92
ス ポ ー ツ	92	93
専 攻 別 基 礎 科 目	82	85
日 本 語 科 目	98	97
平 均	85	87

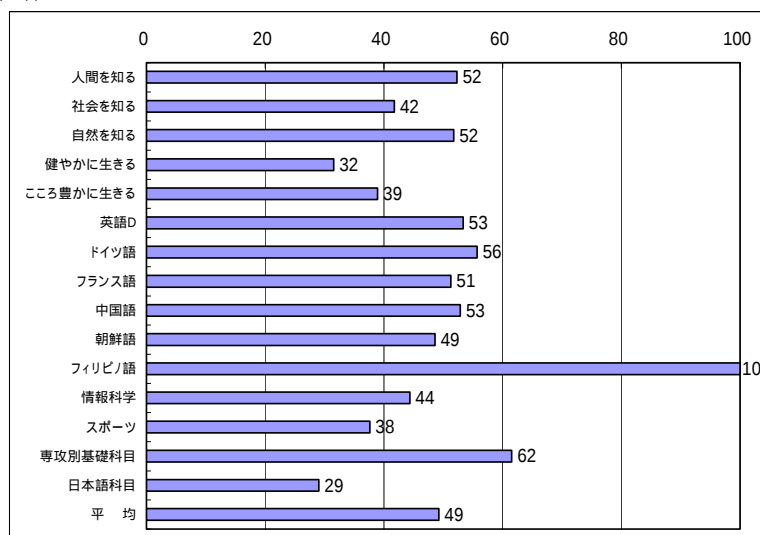


「レベル」についての肯定的な回答は、全科目平均で過半数を下回る49%であった。なかでも、「健やかに生きる」「こころ豊かに生きる」「日本語科目」は40%以下であった。授業内容のレベルの評価が落ち込む要因は、学生の学習背景の多様化、学習目標に対する期待値の温度差、わかりやすさの欠如など様々な要因が複合的に絡むことが多い。そのため、授業内容のレベルは学生と教員のコミュニケーションにより臨機応変に対応することが求められる。

表4 設問 1-4 レベル

(全回答数に対するA, B評価の割合(%))

	平成 前	16年度 後
人 間 を 知 る	56	52
社 会 を 知 る	48	42
自 然 を 知 る	49	52
健 や か に 生 き る	49	32
こころ豊かに生きる	32	39
英 語 D	71	53
ド イ ツ 語	58	56
フ ラ ン ス 語	49	51
中 国 語	49	53
朝 鮮 語	50	49
フィリピン語	100	100
情 報 科 学	51	44
ス ポ ー ツ	38	38
専 攻 別 基 礎 科 目	60	62
日 本 語 科 目	32	29
平 均	51	49

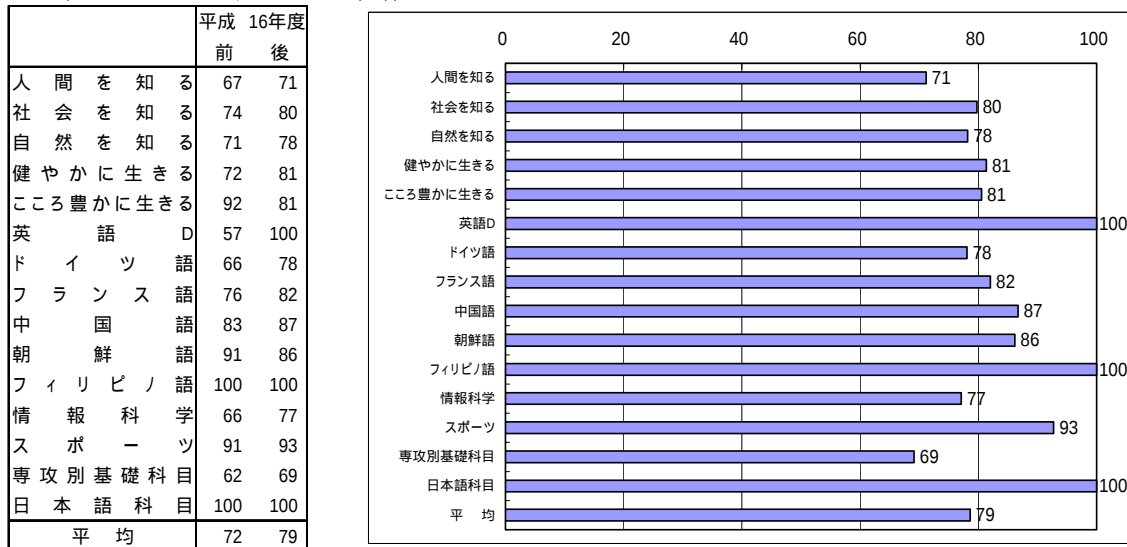


2) 「授業担当者の授業方法に関する質問」に対する学生の評価

まず「わかりやすさ」についてであるが、全科目平均では79%の肯定的評価であった。授業の「わかりやすさ」は授業の「目的・目標の理解」と強い因果連鎖の関係にある。このことから、学生は学ばべき目的を理解することで、「わかりやすさ」の理解度を高めていく。このため、授業展開の原点である「目的・目標」を理解させて、わかりやすさに着目した取り組みに期待したい。

表5 設問 2-1 わかりやすさ

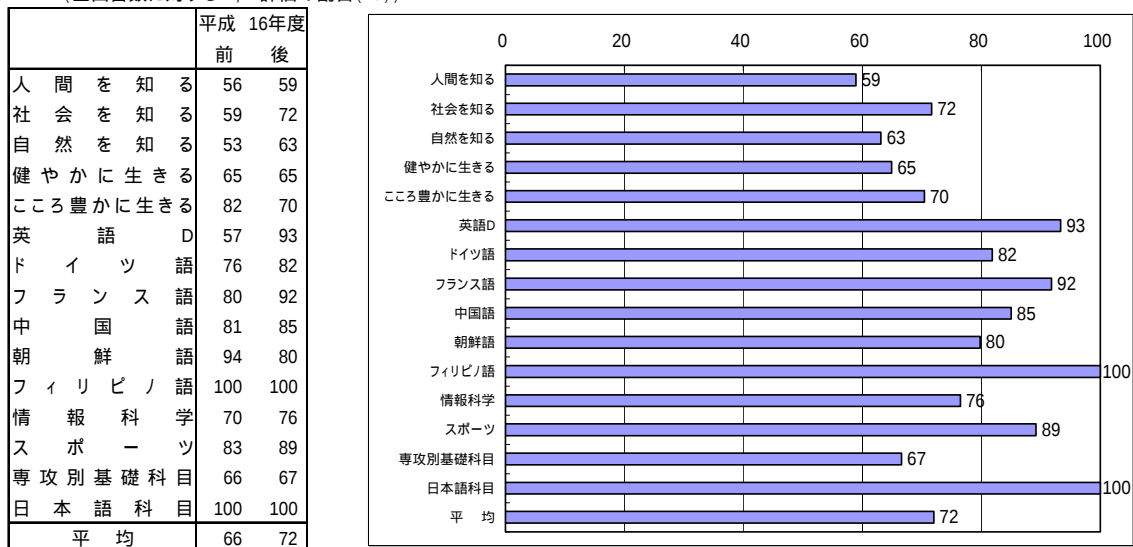
(全回答数に対するA, B評価の割合(%))



「コミュニケーション」については、全科目平均の肯定的評価が72%であり、70%を下回るのは「人間を知る」「自然を知る」「健やかに生きる」「専攻別基礎科目」であった。これらの科目は、いわゆる知識伝達型の授業が展開されており、あまり学生と教員間の活発なコミュニケーションが図られなかった。しかしながら、学生のコミュニケーション能力の向上が社会的要請として求められていることから、授業における教員と学生両者のコミュニケーションのはかり方を今後のF Dの課題とした。

表6 設問 2-2 コミュニケーション

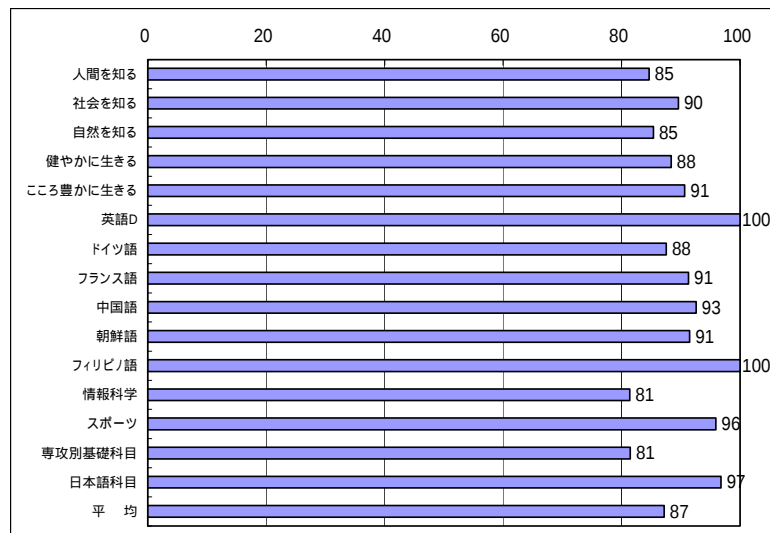
(全回答数に対するA, B評価の割合(%))



「教員の意欲・熱意」については、全科目平均の肯定的評価が87%であり、全科目が80%を上回った。教員の「熱意」は学生に伝わってこそ教育効果につながるものであり、引き続きこの評価が維持されることを期待したい。

表7 設問 2-3 教員の意欲・熱意
(全回答数に対するA, B評価の割合(%))

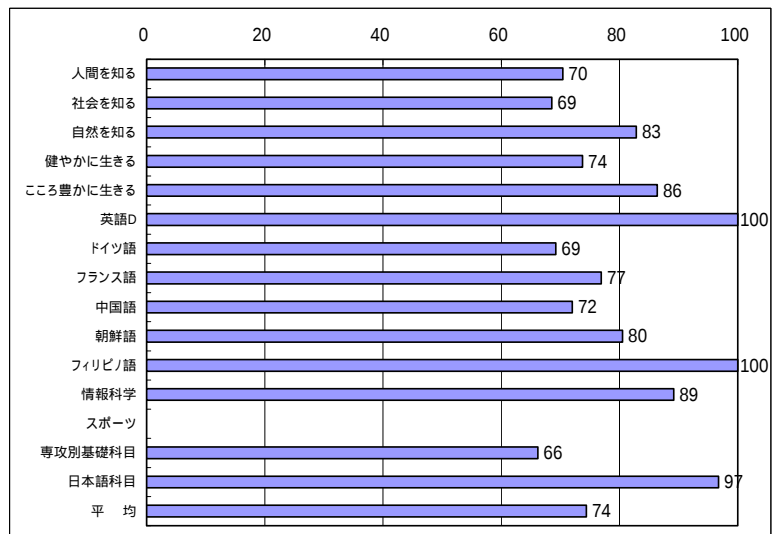
	平成 16年度 前 後
人 間 を 知 る	87 85
社 会 を 知 る	87 90
自 然 を 知 る	83 85
健 や か に 生 き る	88 88
こころ豊かに生きる	97 91
英 語 D	43 100
ド イ ツ 語	86 88
フ ラ ン ス 語	88 91
中 国 語	92 93
朝 鮮 語	97 91
フィリピン語	100 100
情 報 科 学	74 81
ス ポ ー ツ	97 96
専 攻 別 基 礎 科 目	75 81
日 本 語 科 目	100 97
平 均	84 87



「視聴覚教材」の肯定的な評価は74%であった。この指標は、学生の理解を促すため、授業の教授手法の一つであるビデオ・コンピュータ機材を効果的に利用していることを確認する指標である。このため、適切な科目特性により視聴覚教材の使用に差異があることに留意する必要があるが、学生の理解を促す教材は積極的に使用すべきであろう。「健やかに生きる」「情報科学」「英語D」では顕著に肯定評価が向上していることから、これまでの取り組みを今後も継続することが望まれる。

表8 設問 2-4 視聴覚教材
(全回答数に対するA, B評価の割合(%))

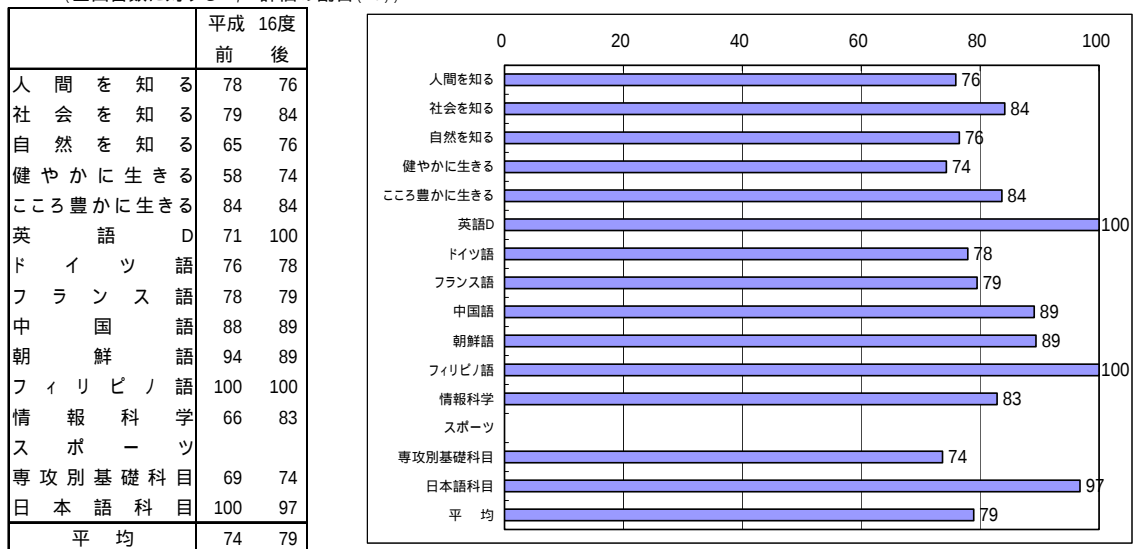
	平成 16年度 前 後
人 間 を 知 る	76 70
社 会 を 知 る	71 69
自 然 を 知 る	76 83
健 や か に 生 き る	52 74
こころ豊かに生きる	90 86
英 語 D	57 100
ド イ ツ 語	63 69
フ ラ ン ス 語	70 77
中 国 語	66 72
朝 鮮 語	81 80
フィリピン語	100 100
情 報 科 学	79 89
ス ポ ー ツ	
専 攻 別 基 礎 科 目	60 66
日 本 語 科 目	98 97
平 均	71 74



「教科書・プリント」については、全科目平均の肯定的評価が79%であった。学生から自由記入欄で指摘される問題のなかに、シラバスに教科書を指定した場合は必ず授業中で使用し、その価値を説明して欲しいという要望が数多く寄せられる。このコメントを真摯に受け止め、シラバスに記載する内容に対して今後もきちんとした説明が求められることを認識すべきであろう。

表9 設問 2-5 教科書・プリント

(全回答数に対するA, B評価の割合(%))

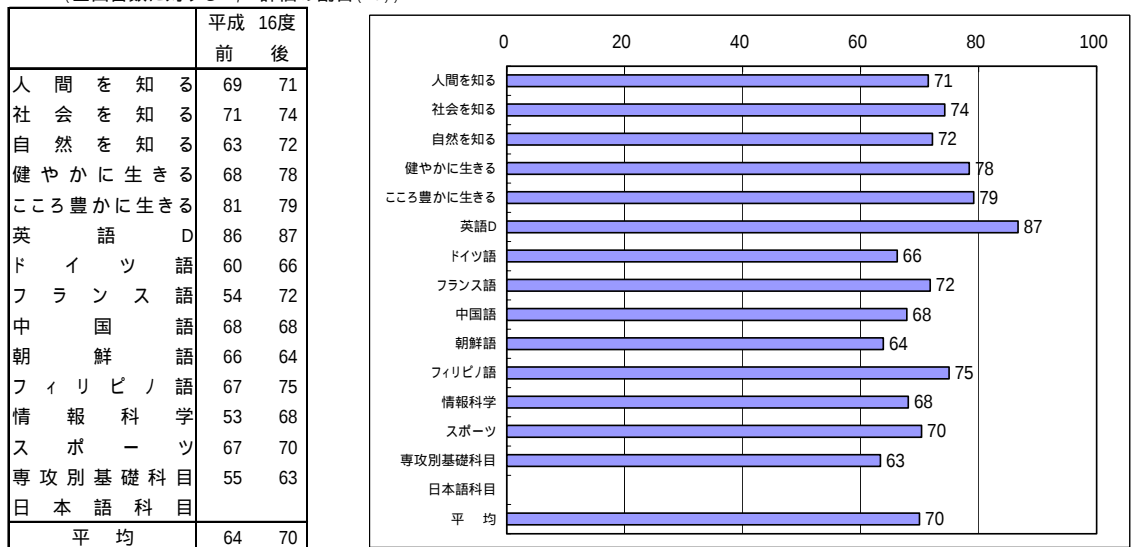


3) 「あなた自身に関する質問」に関する学生の自己評価

「シラバス」は、全科目平均で70%の肯定的評価であった。シラバスは学生との授業に関する契約と同等という認識に立ち、さらに改善する必要がある。

表10 設問 3-1 シラバス

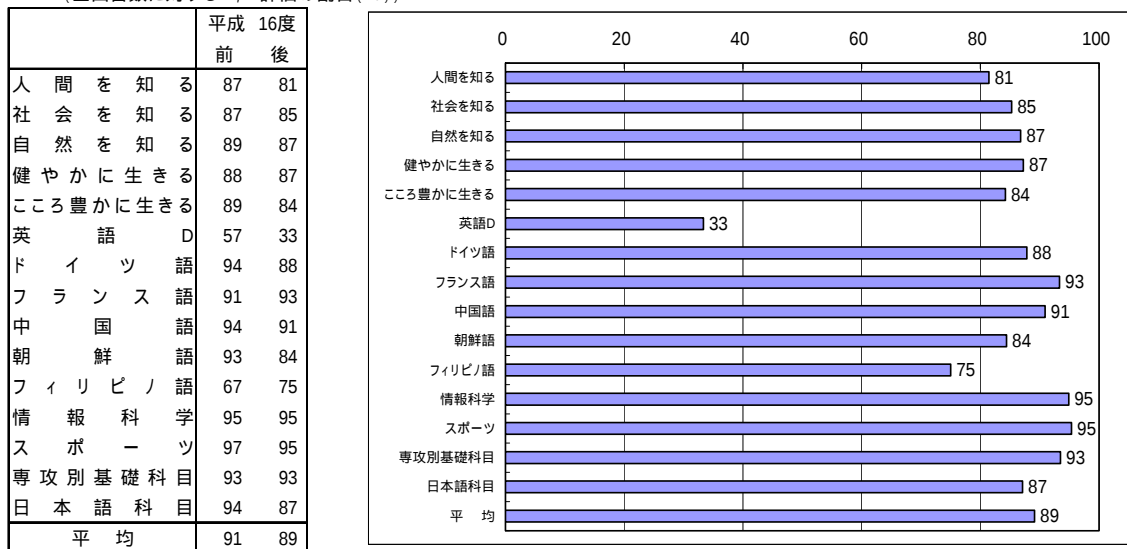
(全回答数に対するA, B評価の割合(%))



「出席状況」は全科目平均で89%であり、特に「情報科学」「スポーツ」「専攻別基礎科目」「フランス語」では93%の肯定的評価を得ている。単位の認定の前提条件として80%以上の出席が求められていることから、これらに対する取り組みの成果と判断できよう。評価が低い科目のうち「英語D」は再履修科目であることから、予想される数字であるが、取り組み体制の見直しが必要であろう。

表11 設問 3-2 出席状況

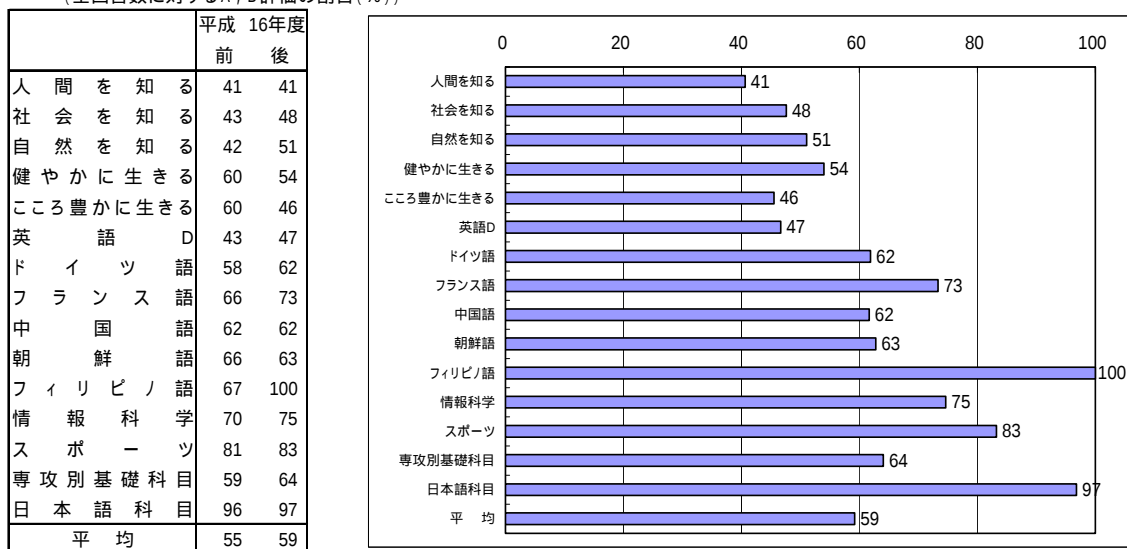
(全回答数に対するA, B評価の割合(%))



「学習態度」については、全科目の肯定的評価は59%であり、改善の余地が残る。特に「人間を知る」「社会を知る」「こころ豊かに生きる」の主題科目群と「英語D」の肯定的評価が50%を下回っており、あまり積極的に授業に臨んでいるとは言い難い状況にある。

表12 設問 3-3 学習態度

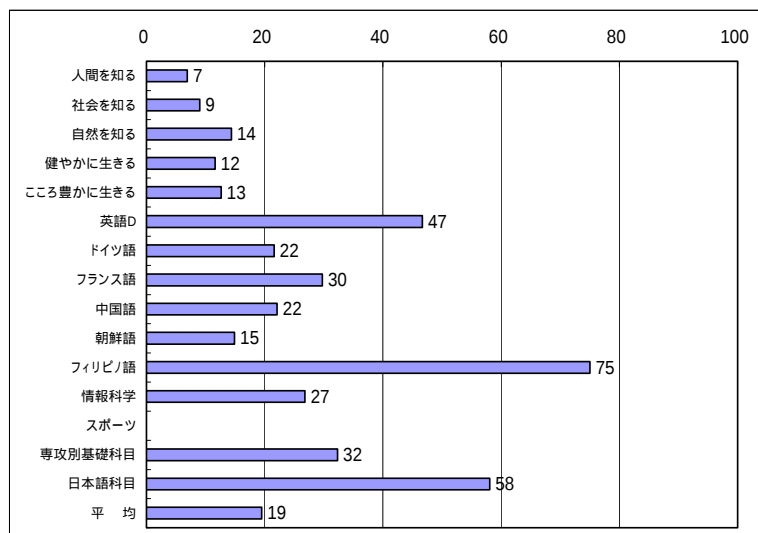
(全回答数に対するA, B評価の割合(%))



「授業時間外学習」についてだが、授業科目ごとに1時間以上行う学生の比率は19%であった。これは前後期ともほとんど評価に変化がなかった。現行の単位制度は、「1単位は 教員が教室等で授業を行う時間及び 学生が事前・事後に教室外において準備学習・復習を行う時間、の合計で標準45時間の学修を要する教育内容を持って構成される」(「21世紀の大学像と今後の改革方針について」大学審議会答申)。そのため、継続的な傾向として自宅学習時間の取り組みが低いことは根本的な問題である。また、科目特性に応じた違いはあるにせよ、「自ら学ぶ」学生を育てるための工夫や仕組み作りは避けて通れない課題である。

表13 設問 3-4 授業時間外学習
(全回答数に対するA, B評価の割合(%))

	平成 前	16年度 後
人 間 を 知 る	10	7
社 会 を 知 る	12	9
自 然 を 知 る	8	14
健 や か に 生 き る	12	12
こころ豊かに生きる	16	13
英 語 D	14	47
ド イ ツ 語	19	22
フ ラ ン ス 語	34	30
中 国 語	25	22
朝 鮮 語	16	15
フィリピン語	50	75
情 報 科 学	22	27
ス ポ ー ツ		
専 攻 別 基 礎 科 目	27	32
日 本 語 科 目	48	58
平 均	18	19



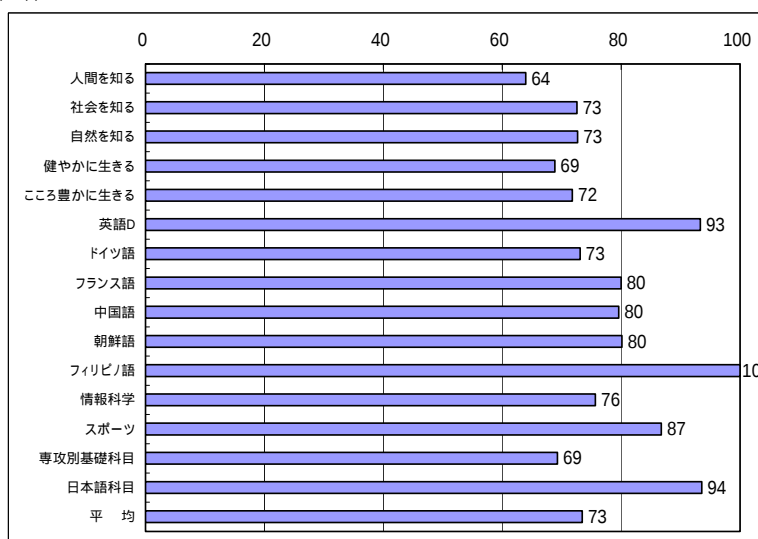
4) 「授業全体に対する質問」に関する学生の評価

「授業改善度」についてだが、学生の意見を取り入れるなどして授業を改善する努力に対し、科目全体で 73%の学生から肯定的評価を得た。この項目は、教員の継続的な改善の成果が見られることから、その努力を称えたい。

ミニッツノートや授業中のコミュニケーションによって学生から問題点を引き出し、教員がどのように問題点を認識し、改善に向けて対処するかということを、機会を設けて学生に伝えることが必要であろう。このような教員の姿勢によって、学生自身も授業が改善されていることを実感するものと考えられる。そのため、これまでの取り組みを持続的に展開することを望みたい。

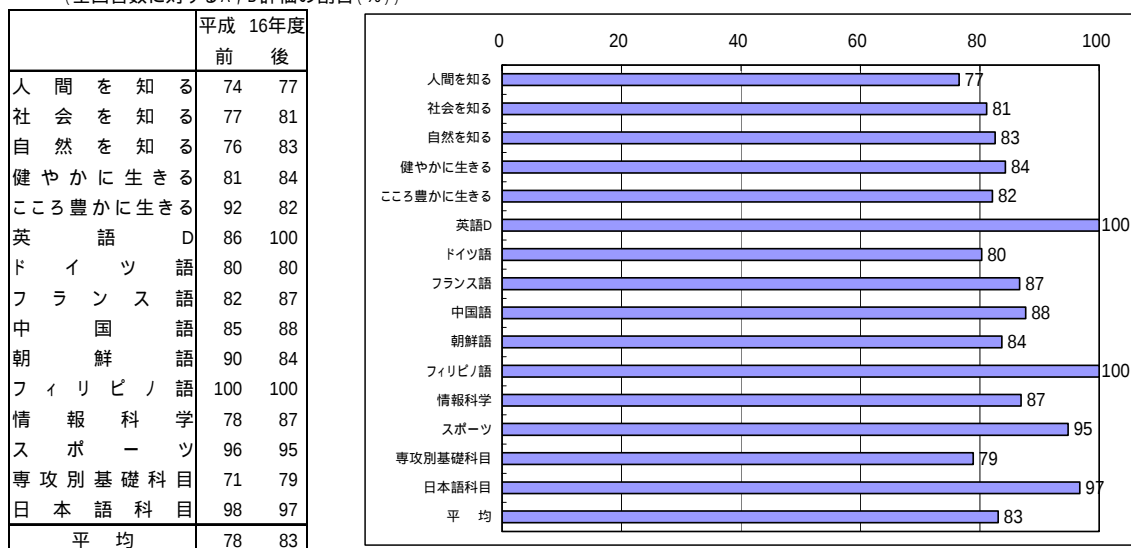
表14 設問 4-1 改善度
(全回答数に対するA, B評価の割合(%))

	平成 前	16年度 後
人 間 を 知 る	66	64
社 会 を 知 る	77	73
自 然 を 知 る	60	73
健 や か に 生 き る	64	69
こころ豊かに生きる	81	72
英 語 D	43	93
ド イ ツ 語	63	73
フ ラ ン ス 語	67	80
中 国 語	72	80
朝 鮮 語	87	80
フィリピン語	83	100
情 報 科 学	64	76
ス ポ ー ツ	85	87
専 攻 別 基 礎 科 目	61	69
日 本 語 科 目	90	94
平 均	68	73



「目的・目標達成度」は授業に対する目的・目標の達成度を質問しており、全科目平均では83%、全ての科目で75%の肯定的評価となった。授業の目標・目的が比較的明確で実技が中心となる「スポーツ」「英語D」「フィリピン語」「日本語科目」は100%に近い高評価となった。また、「人間を知る」、「社会を知る」、「自然を知る」の3主題科目や「専攻別基礎科目」の評価も80%程度と高い評価であった。このことから、学生に対する授業内容の周知は充足され、授業の目的は満足できるレベルで達成されたと判断できる。

表15 設問 4-2 目的・目標達成度
(全回答数に対するA, B評価の割合(%))



授業全体としての満足度は全科目平均で79%であった。特に科目間の格差が縮小していることが特徴である。

共通教育のありかたを論じる場合に、いたずらに学生の反応に振り回されてはいけませんが、授業は受け手に受容されない限り、効果を期待することはできない。満足度があまり高くない科目については、学生のニーズに沿ったものか、あるいは教育プログラムの面から問題がないか、検討課題として受け止めなければならないだろう。

表16 設問 4-3 満足度
(全回答数に対するA, B評価の割合(%))

